

ブログプロジェクト : Moodleを超えた協働学習

著者	品川 恭子
雑誌名	関西外国語大学留学生別科日本語教育論集
巻	19
ページ	63-81
発行年	2009
URL	http://id.nii.ac.jp/1443/00005865/

ブログプロジェクト—Moodle を超えた協働学習

品川恭子

要旨

カリフォルニア大学サンタバーバラの二年生日本語クラスでは協働学習のコミュニティの育成を目指し、2007年秋学期より Course Management System (CMS) の一つである Moodle を試用し成果が見られた。これに引き続き、今回は Moodle で行っていた学生間の相互コミュニケーションにブログを活用した。

本稿では、このブログプロジェクトの紹介、実践例を報告する。そして、学習者のフィードバックの結果を元にどのような学習効果が見られたか、また学習者の動機づけにどのような影響が見られたのかを考察する。

【キーワード】 ブログ、協働学習、動機付け

1. はじめに

近年、外国教育において様々な形でコンピュータを利用した学習 (CALL: Computer-Assisted Language Learning) が行われている。その中でも、Web CT、Blackboard、Moodle、Sakai などに代表される e-Learning システムは、Course Management System (CMS) としての役目だけでなく、教室外での教師と学習者、学習者間のコミュニケーションを可能にさせる媒体として、協働学習に大きな役目を担うものとして注目されている。本学の日本語プログラム二年生では、2007年の秋学期より Moodle を利用し、クラスでのディスカッションの前作業にビデオやサイトを与え、それを視聴しての意見の交換、作文の投稿、それを読み合っただけのコメント投稿、Glossary Module を利用してスラング辞書作成などの活動を行った (品川 2008)。

今回は、クラスの Course Site として Moodle は利用しつつ、従来行ってきた Moodle での活動の中で作文の投稿、それを読み合いコメントを書く活動に

ブログの利用を試みた。ブログは写真やビデオがアップロードできるという Moodle にはない大きな利点を持っている。また、クラス内の相互コミュニケーションだけでなく、それを越えたコミュニケーションの場の提供、自由な表現の場を提供することができる。

本稿では、ブログ利用に至る経過、ブログプロジェクトの概要、実践例の紹介をする。また、ブログに対する学習者のフィードバックの結果の報告と共にその学習効果について考察する。

2. ブログ試用への経過

2.1 Moodle vs. ブログ

本校二年生では、Moodle を利用して協働学習を行ってきた。今回それに代わってブログの利用を考えた理由として、一つ目にはブログには Moodle の利点に加え、さらに学習者の動機を高める要因が多いと感じたからである。2つ目は、CALL 教材を考える上で考慮すべきことの重要な要因の一つとして、学習者が自主的に自分のペースでできる総合学習ができるものが大切であり、そのような面でブログは Moodle より適切な媒介だと感じたからである。ここでまず、本校での Moodle 利用について簡単に紹介してから試用への理由を述べる。

Moodle とは、Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment の略称で、オープンソースの学習管理システムである。社会構成主義の教育理念に基づき、シラバス、スケジュールの提示、教材のダウンロードというコースウェブサイトとしての機能だけでなく、協働学習を支援する多くのモジュールを備えている。そのため、教師と学習者の間、学習者間での双方向のコミュニケーションを行うことができる。本校ではこの機能を利用して、主に以下のような協働学習活動をしてきた。

1. クラスディスカッションに関するビデオを見て、コメントを投稿、そのコメントを読み合う。
2. 作文の投稿、投稿されたクラスメートの作文を読みコメントを書く。
3. クラスメートの発表の評価を投稿する。

これを行った結果、学習者が意欲的に取り組むようになった。特に読む活動に関しての効果が顕著であった。また、クラス内のコミュニケーションが促進されたという効果も見られた。

ブログとは、日常生活の出来事などを日記的に書けるウェブサイト (online journal) のことである。1999年に Blogger.com が始まってから非常に人気が出て来ている (Pinkman 2005)。Moodle に比べて、ブログには以下のような利点がある。

1. 写真、ビデオがアップロードできる。
2. 課題以外に自由に書いて投稿できる。
3. 本当の読者とのコミュニケーションの場である。
4. 学習者の自主性、動機付けをより促す。

Moodle での投稿では、リンクを張ることはできるが写真やビデオを投稿することができない。アメリカでは多くの学生が Facebookⁱ を使っている。日本語学習者の全員が Facebook に登録していて、ほぼ毎日ログオンをしている。その魅力の一つに写真やビデオを自由に投稿できるということがある。今の若者にとってビジュアルな要素は不可欠である。またブログでは、学習者は自分でテンプレートを作り、自分の個性を出すことができる。Kubler (2008) が指摘するようにコンピュータで育った「Digital Generation」である現代の学習者にとって、コンピュータによる教育テクノロジーには「Coolness Factor」がある。その中でもブログは、Moodle に比べてよりその「Coolness Factor」という意味で遥かに勝っており、学習者の興味を引きつけ、動機付けを促すものであると言える。

また、ブログでは時間のある時に課題以外に自由に好きなことを書いて投稿できる。自分の気持ちを表現できる機会をより与えられるのである。

読者に関しては、Moodle の場合、クラス用のウェブサイトであるため、パスワードを持っている日本語のクラスの学生だけしかそれを見ることができない。つまり、学生間だけの限られた世界でのコミュニケーションになる。一方、ブログの場合、だれでも見ることができる。Pinkman (2005) は「ブログはクラスでの一対一のコミュニケーションに代わることはできないが、本物の読者 (real life audience) のために言語を使って考え、言語を作り出す環境を与える」と言っている。Ward (2004) と Pinkman の先行研究では、ブログの利用に

より、学習者の読み書きにおいての興味が増したとある。ブログで本物のコミュニケーションの場を提供することにより、Moodle よりも読んだり書いたりする意欲をより高め、自主性を養い動機付けを高められると考えた。

2.2 ウェブブログの選択

現在ネット上には様々な無料のウェブブログのアプリケーションがある。その中からどれを使うかを決めるのにとにかく「使いやすい」という点、特に以下のことに関して考慮した。

1. 登録が簡単である。
2. 写真、ビデオのアップロードがしやすい。
3. 写真、ビデオの容量制限が大きい。

これらを考慮した結果、**Blogger** (<http://www.blogger.com>) の使用を決定した。**Blogger** は英語のインストラクションがあり、登録が簡単にできる。写真、ビデオのアップロードも非常に簡単にでき、写真は 1024MB までアップロードできる。また、ビデオは **You Tube** に載せられたり、また自作のビデオは一度に 100MB まで載せられる。テンプレートに関しては選択も多くあり、また自分なりにカスタマイズすることができ、学習者の個性を出すことができる。最終的に決定するにあたり、教師がまず自分のサイトを作成、使いやすいかどうかを試した。

3. ブログプロジェクトの概要

このプロジェクトは本校の **Japanese 6**（六学期目日本語）クラスで行った。**Japanese 6** は『げんき I.II』を終了し、初級の文型をすべて終えたばかりのレベルである。レベル的にブログに挑戦させるのに決して無理ではなく、むしろ、今までの型にはまったものから脱し、もっと自由な環境で文型を実際に使える場としてブログは最適だと考えた。

3.1 ブログプロジェクトの目標

これを行う際に目標を以下のように決め、学習者に伝えた。

1. 既習の文型を実際場で使う。
2. 自由に書きたいことを書く。

3. 自分の興味があるブログを探し、それを読んでコメントを書く。
4. ブログを通してクラスの外にコミュニケーションを広げる。

3.2 投稿するブログの内容

3.1 での目標を念頭に、ブログの内容は下に示した三つの課題と、自由に書くもとと二通り指示した。それぞれのエントリーに対して、少なくとも二つのブログを読んでコメントを書くことを課した。

1. 自己紹介
2. Web Quest
3. 祭りの紹介

この中の 1.2. は従来の Japanese 6 で Moodle に投稿させていた作文やプロジェクトである。Japanese 6 ではスリーエーネットワークの「トピックによる日本語総合演習：テーマ探しから発表へ（中級前期）」を使っている。この中の「旅行」「祭り」というトピックに沿って、「Web Quest」と「祭りの紹介」という二つのプロジェクトをさせていた。「Web Quest」はインターネットで情報を調べて日本での二泊三日の旅行の計画をたてるもの、「祭りの紹介」は、自分の興味のある祭りについて起源、特徴などを調べるものである。今まではそれを Moodle 上に投稿させて、お互いにコメントを書かせていた。

それぞれの課題についてはプロジェクトを始める前に担当教師の作ったブログを見本として見せてから取りかからせた。

3.3 手順

本校はクォーター制で一学期 10 週間ある。その 10 週間の間、以下のような手順で進めた。

第一週目

第一週目にラボでのクラスを一時間使ってブログプロジェクトの目的、内容の説明（資料 1）。学生は Blogger に登録、教師にその URL をメールで転送する。その後、教師の書いた自己紹介のブログを読み、自己紹介を書く。

第二週目

日本語のクラス全体の URL を一つのウェブサイトToListして、学生に連絡。学生は自分が選んだ最低二人の自己紹介を読みコメントを投稿。このウェブサイト作成はコンピュータに詳しい TA (Teaching Assistant) が担当。

第二週目から第三週目

「Web Quest」のプロジェクトをする。クラスや授業外にネットで日本の観光の情報を集め、旅行の計画を書くと同時にその観光地の景色、特産物、お土産などに関連する写真、ビデオも投稿。締め切り後は、投稿されたクラスメートのブログの中から自分が行ってみたい旅行を選び、そのブログにそれが好きな理由を含めたコメントを投稿。

第八週目から第十週目

「祭りの紹介」のプロジェクトをする。ネットで興味のある祭りを調べ、それを選んだ理由、祭りの起源、時期、場所、特徴などを書く。また、それに関連する写真、ビデオ、サイトへのリンクも載せる。投稿の締め切り後、他の投稿を読み、最低二つのお祭りにコメントを書く。

課題に取り組んでいない第四週から第七週には口頭発表の課題が入っていた。この間は自由にブログを書くように学生に奨励した。課題のブログの文章の長さに関しては教師のモデルを見せ、少なくとも同じぐらいの長さのものを書くように指示した。また、コメントに関しては、課題のものは 100 字以上書くこととした。自由に書くブログ、コメントに関して特に指示を与えなかった。

3.4 評価

評価は課題の中の「Web Quest」と「祭りの紹介」の投稿だけをルーブリックⁱⁱで評価、それ以外の「自己紹介」や自由に書かせたブログは評価に入れなかった。またコメントの投稿は宿題の一部として扱い、課題以外どれだけ投稿したかは評価に入れなかった。

3.5 エラーコレクション

ブログに投稿する日本語の間違い直しに関して、「Web Quest」と「祭りの紹介」は最終的にアップロードさせる前に原稿を提出させてそれを直させた。それ以外のものは投稿の前に提出させることをしなかった。投稿の中で何度も

繰り返す間違い、目立つ間違いについて（例えば「ジャーズ（ジャズのこと、ブログのタイトルになっている）」「ハフ（ハーフのこと）」など）は、コメント欄の中でそれを指摘した。

3.6 読者

主なブログの読者は二年生日本語の 3 クラスの学生同士、担当教師と他の日本語教師である。本校の関係者以外に広島大学日本語教育クラスの日本人学生達にもブログを読んでのコメントの支援を得た。

教師は担当の学生 17 人のブログの全てにコメントを書いた。新しく投稿されたブログを見つけるために個々のブログサイトを見ていくのは時間がかかるため、TA の助けで Net News Wireⁱⁱⁱ というフリーソフトをインストールした。このソフトは、登録したサイトがアップロードされるたびにコンピュータ画面上でそれを見ることができ、非常に便利であった。

4. ブログの紹介

ここでは担当のクラス 17 人のブログの内容のいくつかを紹介したい。紹介するのは、「自己紹介」と課題以外に自由に書いたものについてである。

4.1 タイトル

ブログのタイトルを見ると、学生の多くは個性豊かなタイトルを付けている。以下がその例である。

1. 「セレナでございます」
2. 「デインジャというスパイの生活」
3. 「隣の客は良く柿食う客だ」
4. 「リベラ？リヴェラ？リヴィラ？」

1. は漫画が好きな学生、2. は「自分の本当の姿はスパイだ」と冗談を言っている学生で、クラスでも「デインジャ」という名前で呼ばれている。3. はちょっと理屈っぽい学生、4. の学生は Rivera という名前で、「これを日本語にした時にどれになるのだろう。」といつも考えているということがブログに書いてある。このような個性的なタイトルを付けているのは 17 人中 10 人、後の学生は「私の経験」「ケィティの生活」のような一般的なものであった。

4.2 内容

4.2.1 自己紹介

自己紹介は課題の一つであったが、宿題として扱ったのみで評価はしなかった。自己紹介のブログは一番初めのエントリーであったため、まず教師が見本を作りそれを見せた。教師のブログには、出身、趣味、春休みにしたことなどを書き、日本料理を作った時のビデオと春休みに行った野球の試合の写真などを載せた。学生の自己紹介にはタイトル同様、写真やビデオで自分なりの個性を表すものが多く見られた。例えば、ジャズバンドのメンバーの学生は、自分のコンサートのビデオと共に自分の趣味について紹介、日本の音楽が好きな学生は好きな J-pop のビデオと宇多田ヒカルと撮った写真を投稿するなど読んでいてとても楽しく、学生達の一人一人の興味、人柄についてより理解できたように感じた。また、クラスで非常に静かで存在感が薄い学生が、この自己紹介でかわいらしくポーズをとった自分自身の写真、スノーボードをしている写真、多くの友人に囲まれた写真で自己紹介をしていた。今まで知らなかった全く別の面を知ることができ、嬉しく感じた。

4.2.2 その他のブログの投稿数と内容

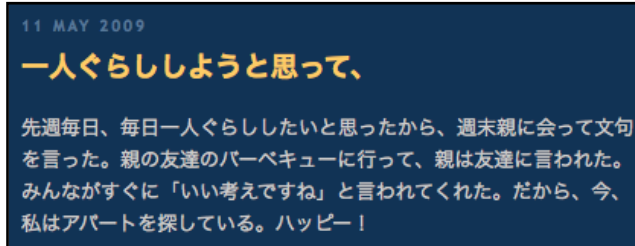
前述のように三つの課題以外は学生の自主性にまかせ、自由にブログを書かせた。その投稿数を見てみると 17 人中 10 人が課題以外にブログを投稿した。残りの 7 人は課題の三つだけであった。下の表が具体的な投稿数である。

投稿数	3	4	5	6	7	9	13	19
学生数	7	4	1	1	1	1	1	1

その内容を見てみると一番多かったのは、日々の出来事、思うことであった。「髪を切ったら変な髪型になってしまった」「車の修理をしたらとんでもなく高かった」「初めて親子丼を作ってみた」「母の日に台湾に住んでいるお母さんへのメッセージのビデオを作った」などである。教師からも学生が時間のありそうな時にブログに書くテーマの提案をした。その中で一番反応があったのは「好きな音楽」で、クラス全体で 13 の投稿があった。そのほとんどが J-pop についてだった。

また、文体については下記の例 1.2 のようにカジュアルな文体が多く見られた。日々感じたことを表現するには自然にカジュアルな文体になると言える。コメントにもそれが多く見られた。

例 1



例 2



4.3 コメント

三つの課題に関してはそれぞれ二つ以上のブログを読みコメント書くことを義務づけたが、それ以外は自主性に任せた。課題以外の書くコメントの内容は、ブログ同様、カジュアルな文体が多く、また長いコメントもいくつか見られた。

5. 学習者のフィードバック

担当の学生全てが日本語でのブログは初めての経験であった。初めての日本語のブログプロジェクトについて学生がどのように感じたのか、著者担当クラスの学生 17 名にアンケート（資料 2）をとった。以下がアンケートの主な内容である。

1. Moodle とブログ
2. ブログ全体について
3. 課題以外のブログ、コメント

以下、このアンケートの結果の幾つかを述べる。

5.1 Moodle とブログ

ここでは、従来の Moodle での協働学習とブログでのものとどちらがいいと思うか、またその理由について聞いた。両方いいと答えた 1 人を除き、16 人の学生が「ブログのほうがいい」という意見だった。その理由として以下のようなものがあった。

写真やビデオが見られる	17 人
好きなことが書ける	17 人
だれでも（日本語のクラス以外の人）読める	9 人
もっと書きたい、読みたいという気持ちになる	8 人
本物 (authentic)	7 人

全員の学生が「写真／ビデオ」「好きなことが書ける」というブログの利点を理由として挙げているのは予想どおりの結果であった。「だれでも読める」ことに関しては、以前 Moodle で作文を投稿させた際に「人に読まれるのが恥ずかしい」という意見があったため、ブログでの公開には抵抗を感じるのではないかという懸念をしていたが、予想外の嬉しい結果であった。

5.2 ブログについて

ブログについての全体的な感想、日本語の上達にどんな効果があったのかということに感想を求めた。

質問：ブログが好き？

好き	14 人
課題以外は好き	1 人
まあまあ	1 人
嫌い	1 人

大部分の学生が「好き」という結果であった。「嫌い」「まあまあ」の理由として、「書くことより話すことをしたい。例えば、スキットを作ってそれを You Tube にアップロードするなどがしたい」、他は「時間がない」というものだった。

ブログが日本語上達に効果があったかということについては、全員がそう感じているという結果で、具体的には以下の面で効果があるという意見であった。

語彙力／表現力	16人
書く能力	15人
読む能力	12人
文化的な知識	12人

学生が読み書きの能力よりも「語彙力、表現力に役に立つ」と感じているのは興味深い点であった。思ったことを自由に書けるブログは、前述のように学生にとってカジュアルな日本語を自然に使える最適な場を提供する。そのため、今まで教科書では目にすることのなかった語彙、表現がブログを通じて学べたと感じているのであろう。この点は教師が期待していたことの一つであるが、学生自身もそれを感じていたという嬉しい結果である。

5.3 課題以外のブログの投稿、コメントについて

本校の学生は、課題になっているものについてはほぼ 100 %の割合で提出するため、ブログが学生の動機にどのような影響を与えたかを見るに当たり、課題以外のブログの投稿、コメントの投稿に関しての質問をした。4.2.2で述べたように 17人中7人は課題以外に投稿をしなかった。その理由として「書くのが嫌い」が2人、「忙しい」が5人で、その他の理由は特になかった。この「忙しい」と答えた学生のコメント欄には「時間があつたら、もっと書きたい」とあり、決してブログが嫌いだから投稿をしなかったわけではないことがわかった。

どのぐらいの頻度で他の人のブログを読んだか、読んだ際のコメントの投稿については以下の結果であった。

他の人のブログを読んだ頻度

一週間に 3、4回	2人
一週間に 1回	3人
二、三週間に 1回	6人
めったに読まなかった	5人
全然読まなかった	1人

読んだ時にコメントを投稿したか

いつも	0人
たいてい	3人
時々	4人
めったにしなかった	8人
全然しなかった	2人

読む頻度は最低でも一週間に一度ぐらいはと期待はしていたのであるが、思ったより少なかったと感じる。コメントの投稿に関しても期待より少なく、「読んでもコメントを書かないことが多い」ということがわかった。

5.4 自分のブログへ投稿されたコメントについて

自分のブログに投稿されたコメントは17人全員がそのコメントを読んだと答えた。具体的に投稿されたコメントに対して、学生はどう感じていたのかについて以下のような結果であった。

コメントをもらった時の感想

うれしい	9人
もっと書こうという気持ちになる	10人
特に何も感じない	2人

誰からのコメントが書こうという気持ちにさせるか

教師／TA	9人
クラスメート／友達	9人
クラスメート／友達 以外の日本人	3人
みんな	14人

自分のブログに他人からコメントをもらうことは学生にとって大きな動機付けになると言える。また、コメントの相手は特定な人に限らず、だれからでももらえる嬉しさと感じている。「だれかが自分が書いたブログを読んでいる」ということが学生のやる気に大きく影響しているようである。「別になににも感じない」という2人の学生は、ブログプロジェクト自体は好きだと答えているが、自由に感想を書く欄に「時間がない」と書いていた学生であった。

6. まとめと今後の課題

学生へのフィードバックの結果からブログプロジェクトに対する学生の反応は、よいものであったと感じる。Moodle に比べて写真やビデオでもっと自由に自己表現ができる、クラスメートのことがよくわかるという利点、自分のブログを読んでいる人がいるということが、学習者の動機付けに大きく影響している。そして、その結果として日本語上達へ通じたと感じる。

ブログプロジェクトを通して、その利点が顕著に見られた学生が 2 人いた。19 のブログを投稿した学生 A、13 の投稿をした学生 B である。学生 A は書くことが非常に好きな学生で、投稿したブログはどれも長く、内容もあり、語彙、表現の面でもレベルの高いものであった。そのブログを読んでいくと日本語での表現力の上達を感じることができた。一方、学生 B は、宿題をほとんどしない学生であったが、ブログに日々思うことをよく書いていて、この学生にとってブログは自己表現の最適の場であったと感じる。

以下、学生からのコメントを幾つかフィードバックから紹介する。

“It was an exciting project to be able to post a blog all in Japanese and it was rewarding.”

“It is a good way to have a personal account of my life.”

“Writing blogs in Japanese makes me realize how much my Japanese language skills have improved.”

この最後のコメントにあるように、全員が日本語でのブログは初めてという中で、「日本語でブログが書けるほど自分の日本語が上達した」という気持ち、今までの Moodle でのバーチャルな環境でのコミュニケーションから移行し、本当の場でのコミュニケーションができたということは、学生にとって動機付けとともに大きな自信になったと感じている。

いい結果が得られたブログプロジェクトであるが、反省点も多い。今後の課題としては、主に以下のことがある。

1. 教師から書くトピックをもっと与える。
2. テクニカルな面のサポートをする。
3. 外部の日本人のコメントの扱い方を考える。

コメントの中に「日常的なトピックを与えてほしかった」というのがいくつかあった。課題以外のブログは学生の自主性に任せたのだが、具体的なトピックを指示をもっとした方がよかったと感じる。

テクニカルな面では、**Blogger** の設定を学生全員同じにしたはずであるが、初めの頃、2人の学生がコメントを載せられない、コメントが読めないなどの問題があった。幸いにも **TA** がコンピュータに詳しく、その助けで解決できた。その2人の学生はブログにも馴染みがなく、「もっとクラスで写真やビデオの投稿のやり方を教えてほしかった」とコメントにも書いていた。このような問題は **CALL** 教材を試用する場合さけることができないことである。テクニカルな面で教師自身をもっと知識を持ち、学生にサポートできるようにするのが必要だと感じた。

コメントに関しては、前述のように広島大学の日本人学生の協力を得てコメントを書いてもらった。その際に予想外のコミュニケーションギャップが発覚した。コメントを書いた日本人学生より、「自分のコメントへの返事がなくがっかりした」という感想が寄せられたのである。畠山 (2007) が指摘するように、通常日本語学習者はブログに書かれたコメントに返事を書くことがないが、日本人は書かれたコメントに対しての返事を期待しているのである。コメントへの返事がなかったため、コメントを辞めてしまった日本人学生もいたようである。これが判明した後、学生にコミュニケーションの違いを説明し、日本語学習者にコメントへの返事を書くように伝えた。今後日本人にコメントを依頼する際にどう対処するべきかが考慮しなくてはならない。このような点を改善し、来年度もブログを続けていきたい。

最後にこのプロジェクトにご協力をいただいた広島大学の先生、日本人学生達、同僚、**TA** に感謝を申し上げたい。

資料 1

日本語 6

日本語でブログを作ろう！

We will create a blog in Japanese. If this is your first time to make your own blog in Japanese, you will see how innovative and fun it is. Now your Japanese is good enough to write a blog. If you are not very visual, please do not worry about the artistic nature of your blog. The content is more important, than the visuals. However, if you are a visual person, this is a great opportunity to show off your talent.

● Which Blog?

The blog we use for class is **Blogger** (<http://www.blogger.com>).

If you don't have a google account, first you need to get it.

Today, you will start creating your own self-introduction in your blog.

After you get your blog URL, please e-mail it to your teacher along with your name.

● Required blogs

You are required to create at least 3 blogs. Please see given explanations below.

(Pictures required, video is optional)

- 1) Self-Introduction 自己紹介 Due : April 13th
- 2) Web Quest :Trip plan-Three days in Japan 日本での三日間 Due:April 20th
- 3) 祭りプロジェクト (introduce your favorite festival based on your research) Due:May 29th

* 2) and 3) will be graded.

You are also required to write comments on your classmates' blogs.(at least 2 comments on each topic) Besides these, you are free to post as many as blogs you would like. We also invite Japanese people to read your blogs. 頑張ってください！ One final suggestion, use common sense in creating the blog content.

● IMPORTANT

When you make sentences in Japanese, make it initially in a Word document. Then copy the sentences and paste them to the blog. In this way, in case you lose the connection, you still have the content in the Word file.

資料 2

Blog Project Questionnaire

I. Blog vs Gauchospace

1. In Japanese 5, you posted your writings and wrote comments using Gauchospace instead of a Blog. Which do you prefer, Gauchospace or Blog? Check either Blog, or Gauchospace and tell us the reasons.

[] **Blog**

Reasons-check all that apply

- () Can see/post visuals.
- () Can write what you want to write
- () Makes you feel like writing or reading more
- () Other people (not people who are in Japanese class) can read
- () Authentic

Other reasons-Please explain.

[] **Gauchospace**

Reasons-Please explain.

II. Blog in general

1. Is this your first time to write a blog in Japanese?

() Yes () No

2. Do you enjoy the blog project?

() Yes () Yes, except assignments

() OK () No

Why or Why not?-Please explain

3. If you have a choice for using a different social networking tool instead of blogger, for the same activities, what would you choose? Why?

4. Do you think that writing / reading on a blog can improve your Japanese?

[] **Yes**

[] **No**

If “Yes”, what aspect? (check all that apply)

() reading () writing

() vocabulary/ expressions

() get cultural information by reading/visuals

Others- please explain

III. Blogs Not related to your assignments.

The following questions are about blogs **Not related to** your assignments.

1. Posting-How many extra entries did you write apart from the three assigned blogs?

[] **I only posted required three entries.**

Reasons-check all which apply to you.

()I don't like to write () I am busy

()I don't get many comments

Others -please explain

[] **I have posted about () entries**

2. Reading other blogs

1) How often do you read other people's postings?

2) Whose blogs do you read? (circle all which apply to you)

Specific person(people) TA Your teacher Random

3) When you read other postings, how often do you write comments?

IV. Comments on the blog

1) How many comments did you post except the ones you were assigned to do?

2) On whose blogs did you post your comments?

Only friends Mostly friends

Both friends and other people

4. Comments you received

1) Did you read the comments you received?

Yes No

2) When you received comments, how did you feel?

happy

motivated to write more

nothing particular

others- please explain

3) Whose comments made you feel motivated or made you happy ?

Check all which apply to you.

Teacher/ TA Classmates/ friends

Japanese person All of them

V.

1. Will you continue to write a blog in Japanese after this course?

Why? Why not?

2. How could we improve this blog project?

Suggestions? Comments? Complaints?

ご協力ありがとうございました。

注

- ⁱ Mixi や My Space などと同様のソーシャルネットワーキングの一つ。
- ⁱⁱ 具体的な項目（例えば作文の場合「内容」「語彙の使い方」「正確さ」など）の評価基準を決め、どのぐらいのレベルに達しているか評価する学習成果評価基準表。
- ⁱⁱⁱ Mac OS 用のフリーソフト RSS リーダー。これにブログを登録するとアップデートされたものが簡単にチェックできる。

参考文献

島山衛 (2007) 「ブログにおけるコメント行為、対話、ディスカッション」

CASTEL-J in Hawaii 2007 Proceedings.

品川恭子 (2008) 「Moodle を利用した協働学習コミュニティ」 関西外国語大学
留学生別科日本語教育論集第 18 号 pp.135-150.

Kubler, Comelius C. (2008). Promises and Perils of Educational Technology in
Foreign Language Curriculum and Materials Development. *Media in Foreign
Language Teaching and Learning*.

Pinkman, K. (2005). Using Blogs in the Foreign Language Classroom:
Encouraging Learner Independence *The JALT CALL Journal* Vol.1 (1).12-24.

Ward, J. M. (2004). Blog Assisted Language Learning (BALL): Push button
publishing for the pupils. *TEFL Web Journal*, 3.1. Retrieved February
15, 2004, from http://www.teflweb-j.org/v3n1/blog_ward.pdf